

小腸カプセル内視鏡検査について

消化器センター消化器内科 太田和寛医師

「飲むだけ」で消化管内部を検査できるカプセル内視鏡が保険適応になりました。4月からこの地域で先駆けて小腸カプセル内視鏡検査を実施し、「体への負担が少なく、小腸内部の検査ができる素晴らしいツール」と言う太田医師に話を聞きました。



日本内科学会認定医
日本消化器学会胃腸科指導医
日本消化器病学会専門医

小腸カプセル内視鏡とは？

カプセル内視鏡は2007年に日本国内において薬事承認、保険適用されて以来、

腸にたくさん潰瘍が見つかりました。心筋梗塞の治療薬(アスピリン)を長期間服用したことが原因と思われる、現在治療されています。

広く臨床の場で使用されてきています。超小型カメラを内蔵した約2cmのカプセルを口から飲み、カプセルが消化管を通過しながら1秒間に2枚の画像を撮影し、画像を記録装置に転送します。この膨大な画像をもとに、消化管内部の診断を行うものです。日本では大腸と小腸のカプセル内視鏡が使われていますが、当院では小腸カプセル内視鏡検査を行っています。

小腸は内視鏡検査が難しく、診断・治療は消化管の中でも後れをとっていました。このカプセル内視鏡のおかげで、小腸の様々な疾患を発見できるようになりました。

どんな患者さんが対象になりますか？

すべての小腸疾患の患者さんです。

当院の患者さんで、貧血や黒色便があり、胃カメラと大腸内視鏡検査では原因がわからず、小腸カプセル内視鏡で検査すると、小



小腸カプセル内視鏡

どのように検査を受けますか？

診察を受けて、小腸カプセル内視鏡検査が必要となれば、検査日を予約してください。検査前日は午後9時以降絶食です。当日は朝8時30分に内視鏡センターに来ていただきます。まず、カプセル位置を確認するセンサーを腹部に

8カ所、シールで貼り、腰に小さなお弁当箱大のデータレコーダーを装着後、カプセルを水で飲んでいただきます。その後は激しい運動やMRIなどに近づくのは禁止ですが、普通に生活をしてください。カプセルは消化管の蠕動運動で進んでいくので、歩いて軽く運動をすればよいでしょう。

また、飲んで4時間後から少量の飲食は可能ですが、トマトジュースのように色の濃い飲み物は画像が見にくくなるので控えてください。

夕方6時に再来院していただき、センサーとレコーダーを回収して検査終了です。検査結果は後日、再来院していただいております。

カプセルは個人差もありますが、7〜8時間排出されます。排出されたカプセルは医療廃棄物ですので、回収し、当院にお持ちください。体内に残ってしまったか、排出されているかどうかはレントゲン撮影で確認し、大腸に移行しているのならば、しばらく様子を見ます。小腸内に滞留している場合は内視鏡を使って、もしくは手術で取り出します。しかし、私の経験上、ほとんどの方が排出されています。